

内閣総理大臣 野田佳彦殿

「はやぶさ」宇宙探査機は2003年に打ち上げられ、幾多の困難を克服し、昨年地球に帰還しました。打ち上げから地球帰還に至る過程はフィルムで再現され、多くの国民に深い感動を与えました。この大きな成功の裏には、我が国の高い科学技術の蓄積があったことは言うまでもありません。小惑星イトカワ到着時に行われた科学観測は多くの成果を生み、米国科学雑誌 Science に特集されました。さらには、「はやぶさ」が小惑星イトカワから試料を地球に持ち帰るという偉業を成し遂げたことが確認され、その試料の分析結果も Science 誌に特集されたことは記憶に新しいところです。

こうした工学的、理学的成果の裏付けのもと、あらたな宇宙探査計画が策定され、その実現に向けて新たな取り組みが行われてきたことは、宇宙惑星科学に携わるものばかりでなく、広く国民に理解され、期待されてのことと思われまふ。「はやぶさ」後継探査機「はやぶさ2」計画には、宇宙での生命材料(有機物)の起源や進化を解明するという大きな科学目標が掲げられています。「はやぶさ」探査機で示された日本の惑星探査に係わる高い科学技術や、惑星科学分野における日本の科学的先進性を考えると、「はやぶさ2」計画が成功する可能性は高く、科学的にも技術的にも世界を1歩も2歩もリードする結果をもたらすものと期待されます。米国の NASA が同様の探査計画 OSIRIS-REx を立ち上げ、欧州共同体の ESA もまた小惑星探査計画を検討している状況を見ても、小惑星探査における我が国の優位性は明らかです。

日本地球化学会は宇宙物質、地球物質を研究対象とし、その元素組成、同位体組成を通して宇宙・地球物質の起源や循環を解明することを目的とする研究者の集団です。「はやぶさ」探査機が持ち帰った「イトカワ」試料の初期分析においては、地球化学会の会員が大きく貢献しました。「はやぶさ2」に対しても、その科学的目的の達成に向かって、若い会員を中心に着々と準備を進めております。その様な状況を見ても、探査機打ち上げの暁には「はやぶさ」の時と同様、充分な成果が得られ、次世代の研究者を育成する観点からも絶好の機会となるものと確信致します。

2011年3月におこった東日本大地震と地震によって引き起こされた原子力発電所の事故は、東北地方を中心として東日本の多くの国民に甚大な被害をもたらしました。「はやぶさ」後継機による宇宙探査計画がこの様な逆境のなかでも推進されることは大変意義深いことであり、国民はこの探査計画について充分理解し、支持しているものと確信致します。是非とも「はやぶさ」後継探査機の打ち上げが実現されますよう、日本地球化学会を代表して要望申し上げます。

日本地球化学会
会長 海老原充
〔首都大学東京 教授〕

なお、同様の要望書を文部科学大臣(中川正春)、宇宙開発担当大臣(古川元久)、JAXA 理事長(立川敬二)(以上、敬称略)宛にも送付しました。